

統合失調症と家族

ハートクリニック

医師 樋口 雅朗

2012年5月6日

ハートクリニック大船 デイケア室

統合失調症とは

- **陽性症状：**
幻聴、妄想、混乱して考えがまとまらなくなる思考障害、
興奮症状
- **陰性症状：** 意欲の低下や自閉傾向など、エネルギーが無くなる
- **20歳前後に発病します。幻覚や妄想は発病を自覚できないことがある。**
- **生まれ持った素質、ストレスに対する対応力が絡み合う**
- **神経伝達物質のバランス異常も関係している**

症状

- 陽性症状と陰性症状に分けられる
- 「社会性の低下」
- 幻覚や妄想、自閉のために、社会生活が機能低下
- 社会生活機能の低下が、治療を困難にしている

治療 1

- 抗精神病薬が基本
- 幻覚・妄想、興奮・混乱といった急性期陽性症状を改善する
- 再発を予防する
- 慢性状態にある患者さんの社会性を回復する

治療 2

- 会話能力を改善し、他人との関わり合いを持たせ、失われた社会性を回復すること
- 急性期・慢性期を通し、症状改善・再発予防のために、抗精神病薬の内服を継続すること
- 精神療法による、心理面に焦点を当てたサポート
- リハビリテーションで社会復帰を目指す。リハビリテーションは急性期を経た患者さんに対して行う。自立への道、つまり社会復帰を目指します。

藥物療法

- 抗精神病藥
- 抗不安藥
- 睡眠導入劑
- 気分調整藥

リハビリテーション

- デイケア
- SST
- 作業所
- グループホーム

家族の方へ ①

- 病状が安定していても、再発を防ぐために服薬を守る必要があります。安定期は、再発への準備期間でもあるので、服薬を中断しますと、再発率が高くなります。
- 寝てばかりいるのは回復の証拠。この時期はいくら寝ても寝たりない、疲労感を強く感じている期間といわれています。急性期間中に心理的エネルギーが大量に消費されたために生じる消耗であり、この期間は失われたエネルギーの回復を行っているため、患者さんに十分な時間を与えた方がよい。
- 不用意に強く励まさないこと。統合失調症の患者さんは、繊細で、他の人より傷つきやすく、人とのつきあいが苦手なのです。

家族の方へ ②

- 同じ体験をしている家族同士で、意見を交換したり、情報を伝え合うことは、たいへん意義があります。病院、保健所などの家族教室や家族会への参加も有意義です。
- 病院に連れて行きたいが、どうしたら良いか？
- 妄想への対応。幻聴や妄想はいかに荒唐無稽に感じられても、患者さんは本気であり、しかも強烈な不安や恐怖を感じています。否定するのではなく、「思い切って医師に相談してみよう。せめて眠れるようになるのでは」と伝えてみましょう。急性期症状には薬物療法が有効ですので、薬を飲むことが重要です。

家族の方へ ③

- 患者さん同士が交流できる場として、グループ活動や生活訓練などのリハビリテーションを中心としたデイケア、あるいは作業を中心とした共同作業所などがあります。デイケアは健康保険が使えます。

家族の方へ ④

- 患者会： 社会生活が可能な患者さんは、通院しながらも普段は社会生活を送っています。悩みを抱えたり、病気に負い目を感じたりすることもあります。そのため、閉じこもりがちになる人も多いです。そこで、仲間同士が交流できる場やグループ活動が行われる場ができました。レクリエーションやスポーツなどが行われることもあります。保健所などでも社会復帰・社会適応を目的としたグループ活動が行われています。

家族の方へ ⑤

- 家族会： 家族同士が互いの悩みをうち明け合う場として家族会ができました。現在では各地域に精神障害者の家族会ができており、都道府県ごとに家族連合会があります。さらに全国精神障害者家族会連合会もあります。

ご静聴ありがとうございました

ハートクリニック

医師 樋口 雅朗